

シリーズ 社会福祉法人の力を地域に

～社会福祉法人の地域における公益的な取組を紹介～

社会福祉法が改正され、すべての社会福祉法人は、「地域における公益的な取組」を行うことが責務として規定されました。社会福祉法人の公益性・非営利性など、その本旨に従い、他の事業主体では困難な福祉ニーズへの対応が求められています。

「子どもも 大人も 居心地のいい場所に」

社会福祉法人長土堀こども園

地域に溶け込んだ施設に

長土堀こども園は金沢市の市街地にある長土堀地区に昭和14年開設、現在の長町に移転後も住宅街に立地しています。園の成り立ちからも、住民の皆さんからは「地域のこども園」という意識が高く、日頃から地域行事に参加したり、園行事に参加していただいたりと地域ネットワークが強みでもあります。

民間施設のため、職員の異動もなく職員と住民の間には世代を超えたつながりができています。

コロナ禍以前は、園内の一室を高齢者のサロンに開放し、住民の憩いの場として利用していただいていた。また、園で催される人形劇や音楽会などのお知らせを地域の掲示板や戸別配布などで案内しています。園の中に入り、職員や子どもと楽しい時間を過ごすだけでなく、子どもたちの普段の過ごし方を見ていただき、互いにちょっとホッとする存在になってほしいと願っています。



消防団によるポンプ車試乗
地域の施設として溶け込んでいます

大人へのケアが子どもへの関わりに変化が生まれる

以前から保護者会が続けている資源回収がきっかけで、園の子どもたちに、と小さくなった衣服やオムツなど寄付をいただくことがあります。せっかくの善意を多くの保護者にも知っていただくようリサイクル活動を始めました。お迎えに来られた保護者に自由に持ち帰ってもらうため玄関に並べると同時に、気にかかる世帯には、必要と思われるものを詰め合わせ、周囲に配慮してお渡しすることも始めました。個別に関わることで保護者の日々の暮らしに少しの余裕ができ、子どもの言動にも影響が生まれるため大人のケアとして続けています。

最近では、卒園児や職場体験等で面識のあるお子さんの家族から、不登校で家に引きこもりがちになっているとお話を聴くことがあり、園で受け入れることも始めました。本人の生活ペースに合わせ、家庭以外で居心地よく楽しめる場所になればと遊びにきてもらっています。保護者が少しでも悩みを話せる場所になれば、子どもとの接し方にも変化が生まれるのではと効果を期待しています。



子供服リサイクルコーナー
お迎え時に自由に持ち帰ってもらっています

今後の取り組み

取り組みに関しては職員間でも共有しみんなで温かく受け入れるよう心掛けています。園ができることで、子どもたちや保護者だけでなく、地域の方々にも安心と笑顔がうまれるまちづくりの一翼を担うことを目指しています。

【問い合わせ】(社福)長土堀こども園 TEL 076-264-1900

◇◇◇地域における公益的な取組をシリーズで発信していきます。情報をお寄せください。◇◇◇